

IV-156 地域構造からみた過疎問題の特性について

秋田高専 正員 折田仁典
秋田大学 正員 清水浩志郎

1 はじめに

過疎問題が一朝一夕に解決に至らない最大の原因は、「過疎問題」と言われる諸問題が、複雑な因果関係にあり、互いに錯綜し、かつ人間の価値観の多様化もあいまって、より一層実態のわからないものになっているからである。また、過疎問題の中には、高速交通体系の未整備、観光・レジャー開発の立ち後れの問題など1地域のみに対応では無理でも、何地域かをひとまとめにすると、より可能となるものもあるが、現在までどちらかといえば、市町村単位での過疎対策が多く、過疎地域振興の阻害の一因となっていると考えられる。

本研究は上述のような問題認識から、まず過疎問題と言われる諸問題を明確化し、次に、地域構造に基づく過疎地域タイプ別に、問題の類似性について検討するものである。それは、「こういう地域ではこのような問題が現出している(する傾向にある)。あるいは、開発のネックになっている」などを明確にしたいからである。

2 調査及び分析方法

調査、分析対象地域は秋田県内の過疎法指定32地域中、都市近郊型過疎地域5、地域間接続型過疎地域4、閉鎖型過疎地域17の合計26地域である。(この過疎地域の分類は著者らの既往研究によるものである)調査は各地域の過疎対策精通者を被験者に、表-1に示す24の各評価要因について、互いに、どの要因に、どの程度直接影響を及ぼしているかなどを質問した。分析には各地域ごとにDEMATEL法を適用し、評価要因の重要性を見るために重要度、他の評価要因への影響を見るために影響度の2側面を中心に考察を加え、さらに評価要因群の構造を図示することにより検討した。なお、影響度、被影響度はアンケートの回答から得られた要因間の直接影響の大きさから算出される直接影響行列、さらに他の要因を介して影響を受ける間接影響から求まる間接影響行列の合計である総合影響行列の列和、行和で表わされ、重要度は(影響度+被影響度)で求められる。

3 過疎問題特性の分析

(1)重要度からの分析

表-2には設定した24の過疎問題(評価要因)の重要度について、過疎地域タイプ別に示したものである。生まれ育った地域で一生生活するという観念が薄れ、二、三男のみならず一家の長となるべき長男でさえも豊かな生活を求めて他地域へ流出する「住民の定住意識の変化」(評価要因16)は、26地域中18地域で重要度が最も高く、さらに25の地域で重要度80%以上となっている。次に、重要度が高いのは、評価要因1、2、3の就労に関する問題及び17の嫁不足の問題である。これらの諸問題は地域構造による顕著な違いはみられず、いずれの地域群においても重要度大として現出している。このような結果を見ると、過疎問題の中で特に重要性が高い問題としては、人間の価値観に起因すると思われる「定住意識の変化」、「嫁不足」、そして、定住要件として重要な「就労」の問題が挙げられ、これらの諸問題は、その重要性においては、各過疎地域とも認識は一致していると言える。

(2)影響度からの分析

影響度大なるものについてみると、地域、都市間の時間距離の大幅な短縮を可能にする「高速交通体系」就労に関する「誘致企業整備」、「雇用の場の確保」、都市機能を楽しむとする「拠点都市整備」、さらに「観光、レジャー開発」などの諸問題が挙げられる。すなわち、これらの諸問題は他の過疎問題への影響が大きいと認識しており、これらの諸問題の解決が他の問題解決へ連がると理解している。しかし

表-2 DEMATEL法による分析結果（重要度、影響度）

過疎地域	重要度					影響度				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
都市										
比内町	16(100.0)	19(59.3)	6(56.9)	5(41.6)	18(40.2)	6(100.0)	2(93.8)	1(89.0)	3(81.0)	11(75.3)
田代町	3(100.0)	6(86.7)	9(80.4)	15(76.0)	1(75.5)	9(100.0)	15(93.9)	3(71.7)	6(59.7)	4(57.7)
近郊										
川辺町	11(100.0)	17(93.7)	3(92.1)	16(91.5)	9(75.6)	11(100.0)	15(65.5)	3(61.7)	13(52.0)	9(42.9)
雄和町	16(100.0)	17(88.2)	13(85.5)	18(42.9)	21(30.8)	13(100.0)	16(95.1)	17(87.9)	18(40.8)	—
型										
岩城町	16(100.0)	15(77.9)	12(62.9)	13(53.1)	9(48.3)	15(100.0)	13(83.5)	12(74.0)	9(69.9)	3(69.3)
地域間連携型										
小坂町	16(100.0)	3(82.8)	2(79.2)	17(53.6)	1(45.7)	3(100.0)	2(94.0)	16(65.1)	15(60.1)	9(57.1)
森吉町	16(100.0)	17(75.9)	11(60.6)	9(60.2)	21(56.6)	11(100.0)	9(80.4)	15(69.4)	3(69.4)	2(64.2)
矢島町	16(100.0)	15(76.0)	9(73.9)	3(64.8)	11(60.5)	15(100.0)	3(83.4)	9(69.4)	2(64.9)	1(63.3)
増田町	16(100.0)	17(75.0)	11(69.1)	9(68.5)	21(63.5)	11(100.0)	9(85.2)	15(70.9)	12(62.5)	14(60.4)
開										
阿仁町	16(100.0)	9(88.4)	2(84.0)	3(80.1)	17(66.7)	9(100.0)	2(81.5)	15(79.1)	3(69.1)	7(54.5)
上小阿仁村	16(100.0)	9(67.8)	3(61.4)	17(57.7)	21(55.1)	3(100.0)	15(94.2)	9(92.7)	11(85.7)	12(82.6)
藤里町	3(100.0)	16(99.4)	11(98.1)	1(98.0)	2(95.8)	11(100.0)	3(89.9)	2(80.0)	15(79.7)	1(47.1)
島海町	16(100.0)	9(78.0)	3(71.2)	12(65.8)	15(63.3)	15(100.0)	9(96.8)	3(84.9)	12(83.7)	2(70.0)
羽後町	16(100.0)	3(52.5)	24(51.6)	2(50.2)	11(44.8)	15(100.0)	3(92.4)	24(71.9)	2(64.1)	11(61.4)
東成瀬村	16(100.0)	17(77.7)	12(76.1)	9(73.7)	2(64.8)	9(100.0)	12(95.6)	11(89.1)	15(83.0)	14(74.6)
皆瀬村	16(100.0)	17(82.2)	3(68.7)	2(68.6)	19(51.7)	3(100.0)	15(88.0)	11(83.3)	2(73.9)	9(60.4)
合川町	3(100.0)	16(86.0)	9(85.3)	15(78.0)	12(74.8)	15(100.0)	3(92.2)	9(88.0)	12(75.3)	2(62.3)
鎮										
琴丘町	16(100.0)	3(96.7)	15(83.5)	1(82.0)	4(76.9)	15(100.0)	3(82.6)	11(54.9)	12(47.9)	9(45.5)
八森町	16(100.0)	18(59.6)	5(44.4)	17(40.2)	19(39.7)	24(100.0)	15(92.5)	16(86.3)	17(83.5)	11(74.0)
峰浜村	1(100.0)	15(92.6)	16(86.9)	2(85.8)	9(77.9)	15(100.0)	9(73.0)	2(55.2)	3(53.9)	6(41.0)
大内町	3(100.0)	1(91.6)	16(81.9)	15(78.3)	2(61.7)	15(100.0)	3(91.8)	2(47.0)	6(36.5)	1(33.5)
東由利町	16(100.0)	2(60.5)	21(46.4)	4(45.7)	3(44.4)	2(100.0)	3(94.7)	15(75.0)	6(66.1)	1(57.8)
型										
南外村	16(100.0)	17(92.3)	3(47.3)	2(43.9)	1(43.3)	11(100.0)	15(92.3)	3(64.7)	6(62.5)	7(51.9)
大森町	17(100.0)	16(91.8)	11(76.1)	15(74.2)	3(69.0)	15(100.0)	11(100.0)	3(78.8)	9(73.2)	2(69.1)
山内村	16(100.0)	17(85.1)	21(56.6)	23(49.4)	6(47.5)	15(100.0)	11(86.1)	9(85.0)	17(70.7)	3(69.5)
雄勝町	2(100.0)	16(82.9)	1(74.7)	3(67.8)	15(57.5)	2(100.0)	15(81.4)	1(71.3)	3(69.6)	17(58.9)

(注)：数字は表-1の評価要因のNo.と一致する。

(注)：()内の数字は最も重要度、影響度の高いものを100とした場合の比率である。

ながら各地域ごとにみると、影響度の大きい評価要因は異なり、就労に関する問題が大きい地域、拠点都市整備の問題が群を抜いて大きい地域、高速交通体系、就労、観光、レジャー開発、生活関連道路など多くの問題を影響度大とする地域など様々である。地域構造別（地域群別）差異がみられる問題の1つに交通問題が挙げられる。高速交通体系の未整備は全県の課題であるので全地域群で影響度大としているが、都市近郊型過疎地域では「公共交通機関に関する問題」を、閉鎖型過疎地域においては「生活関連道路整備の立遅れ」をそれぞれ挙げており、地域の置かれている条件によって、抱えている交通問題が異なることを示している。

重要度、影響度の2側面から過疎問題と言われる諸問題を検討したが、「過疎問題は地域によって認識が異なるか」と問われれば、「少なくとも重要度ではコンセンサスが得られているが、問題の他の問題への影響の度合については地域によって異なる部分がある」と答えることができる。しかし、評価要因を構造化して、評価要因間の影響ルート进行分析してみると、大部分の過疎地域では、概して、高速交通体系整備を出発点として、その効果を観光、レジャー開発及び生活関連道路の整備へ波及させ、就労・就業条件の向上をみて、地域住民の定住化促進を図るという構図をイメージしているようである。

4 おわりに

今後は、これらの結果をもとに、クラスター分析などを適用して、より詳しく分析を行うつもりである。

表-1 評価要因

1. 出稼ぎの問題
2. 雇用の場の確保の問題
3. 誘致企業整備の立ち遅れ
4. 所得水準の低さ
5. 田・畑・山林の荒廃
6. 農業への意欲の阻害
7. 文化・レクリエーション施設の整備の立ち遅れ
8. 医療施設の整備の立ち遅れ
9. 観光・レジャー開発の立ち遅れ
10. 都市型の消費生活への移行による環境問題
11. 生活関連道路の整備に関する問題
12. 公共交通機関に関する問題
13. 冬期積雪時の道路の除排雪に関する問題
14. 高速交通体系の整備に関する問題
15. 住民の定住意識の変化
16. 障不足の問題
17. 高齢者問題
18. 教育に関する諸問題
19. 日用品の買い物等に関する問題
20. 防災活動や奉仕共同作業への支援
21. 祭礼行事の停廃
22. 雪下ろしの問題
23. 情報化社会からの疎外